

三瓶火山の浮布黒色土以後の火砕物の層序と年代

松井 整司*・福岡 孝**

Stratigraphy and ages of pyroclastic deposits since Ukinuno black soil of Sanbe Volcano, Shimane Prefecture, Japan

Seiji Matsui* and Takashi Fukuoka**

三瓶山麓に分布する浮布降下火山灰の上位には黒色土がある(松井・井上(1971)). 厚さは50~80cmと厚く, 漆黒の色調とともに山麓で最も顕著な黒色土である. ここでは, これを「浮布黒色土」と呼ぶ. 浮布黒色土の上半部にはアカホヤ火山灰を含む明確な層準(島根大院生中村唯史氏未公表試料)があることから, 研究は, ほぼ6000年前以降に三瓶火山から噴出された火砕物を対象としたものと言うことができる.

表は林・三浦(1987)の「表3」から, 本研究に関する部分を抜粋し, 一部を改変したものである. 松井・井上(1971)が浮布降下火山灰と三瓶円頂丘溶岩の間に「角井降下火山灰」などの降下火砕堆積物の存在を認め

ているのに対し, 他の3報告では, この間に降下堆積した火砕物は記載されていない. 本研究はこの点の検証を目的とする.

問題となる浮布黒色土以降の降下火砕堆積物について, 服部ほか(1983)は, 全域にわたる鍵層は見出し得ないとしていることから, 層相の変化によってもたらされる対比の混乱を少なくする意味で, とりあえずは, 山体の東方に絞って野外調査を行った. また, 林・三浦(1987)は, 降下火山灰の鉱物組成がほとんど等しいと述べているが, 火砕堆積物に含まれる類質物の量的な違いが鉱物組成にも反映されることが考えられ, これが対比に手掛りを与える可能性もあるので重鉱物の組成を調

三瓶火山の完新世の活動史とテフラの対比表

鈴木ほか(1968)	松井・井上(1971)	服部ほか(1983)	林・三浦(1987)
志学火砕流堆積物	最新降下火山灰 *大平山火砕流 大平山降下火山灰 (3680年前)	太平山降下火砕堆積物	太平山三瓶降下火山灰
早水川火砕流堆積物		太平山火砕流堆積物	三瓶太平山火砕流堆積物 (3600年前)
角井火砕流堆積物			
久部・伊佐火砕流堆積物			
大平山降下火砕堆積物			
~~~~~④	~~~~~⑥	~~~~~④	~~~~~④
三瓶円頂丘熔岩	三瓶円頂丘熔岩	三瓶円頂丘熔岩	三瓶円頂丘熔岩
長者原凝灰角礫岩層	長者原火砕流	北の原溶岩流	
多根火砕流堆積物		多根火砕流堆積物	三瓶多根火砕流
	角井降下火山灰 *志学火砕流(4480年前) 志学降下火山灰		
	~~~~~⑤		
三瓶橙色降下軽石層	浮布降下火山灰		<アカホヤ火山灰: 6300年前>
~~~~~③	浮布降下軽石	三瓶降下軽石堆積物	三瓶浮布降下軽石
	(以下省略)	~~~~~③	~~~~~③

林・三浦(1987)の「表3」の上半部を抜粋し, 活動期の区分として~~~~~②(丸付数字は各報告の活動期の序数)を挿入し, 字句の一部を修正した. また, *は本文末尾の年代を測定した火砕堆積物である. なお, 太平山(または大平山)を冠した火砕流堆積物は複数枚あって降下堆積物と互層するため, この活動期の火砕堆積物を流下・降下の別で一括した場合, 上下関係は表現され得ない.

* 島根大学汽水域研究センター客員研究員  
 Research Center for Coastal Lagoon Environments, Shimane University  
 ** 島根県立三瓶自然館専門指導員  
 Sanbe Shizenkan Nature Museum, Ohda City, Shimane Prefecture

